

平成29年11月24日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 様

議会報告会 2班

班長 戸辺 滋

根本 守

森田 洋一

小田桐 仙

大塚 洋一

西尾 段

野田 宏規

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

1 日時 平成29年11月11日(土)

午後2時～午後4時

2 場所 おおたかの森センター 会議室2

3 欠席議員 なし

4 来場者数 市民来場者 61人

議員・職員 7人

5 報告内容

- (1) 介護保険の決算報告
- (2) 新設校と学区について

6 意見交換内容

- (1) 介護保険の決算報告

Q1

これから介護施設の建設の予定はあるのか。また、高齢者賃貸住宅に流山市の特別会計から補助が出るのか。

A1

介護施設については待機者がいるので、特別養護老人ホームも含めてまだ建つ。高齢者賃貸住宅は民間事業であるので、市からの補助はない。

Q2

介護保険が年金から引かれるのが納得できない。流山市は柏市と比べると介護や生活保護の認定基準が厳しいと聞いている。

A2

年金の天引きについては、基本的に介護保険の制度や生活保護の制度は国の決められたルールに基づいて行っているので、ご理解いただきたい。また、流山市の介護認定が厳しいということはなく柏市と比べてもほぼ同じである。ただし、平成30年度から制度が大きく変わるが、流山市の場合は平成27年度から制度の変更を先取りして取り組んでいる経緯もあり、ご意見として受け止めておきます。

(2) 新設校と学区について

Q1

新しい保育園を沢山作るから転入者が増加する。今後もその政策を続けるのか。今年度、来年度の新設の保育園の建設予定はあるのか。

「母になるなら流山市」のポスターが都内の駅に貼ってあったり、送迎ステーション事業をマスコミにアピールすることは良いことだと思うが、以前、日経新聞に「流山市人口誘致に失敗」というタイトルで載っていた。流山市は人口誘致政策をこれまで通り進めるのか。人口誘致について、市はどれくらいまで責任を持っているのか。

A1

待機児童がいるので、保育園の新設は行う。人口誘致政策の失敗かどうかについては各党各議員によって判断が異なるので、意見だけ伺わせて頂く。

Q2

住まいは東初石6丁目で娘がおおたかの森小学校6年生で、平成27年おおたかの森小学校が開校時に小山小学校から転校した。転校によって子どもたちは友達関係が損なわれるということがある。以前よりも通学距離も長くなり、安全のため流山おおたかの森駅を東口から北口、西口、南口へと迂回するので更に距離が長くなっている。

保護者にとっても転校は兄弟が別々の学校に通うと2つの学校でPTAの役員をやらなくてはならない場合があるので共働きの親にとっては計画が狂う。

兄弟がいる家庭では転校に対する対応が様々で、例えば兄弟が1年間小山小学校にいたので、下の子も入学したが2年間の猶予のはずが2年生の時におおたかの森小学校に転校するよう学校から言われたケースや、弟妹のために姉がおおたかの森小学校に転校したため、姉の元気がなくなったケースがあり、転校は子どもに大きな影響がある。

A2

子どもの兄弟の環境や健康、精神的な問題などいろいろな負担があると思う。議会も伝えることは伝えるため、より多くの意見を賜りたい。

Q3

おおたかの森小学校もたった2年で足りなくなり新しい小学校を作るが、推計をきちんとしていたのか疑問に思う。

これから転入してくる住民がおおたかの森小学校に通うのは、線引きされた人たちにとっては納得できない。線引きも現在住んでいる人たちを優先に考えて欲しい。

以前市役所に、新しくできるマンションの業者には建設前におおたかの森小学校に通学できるか分からないと説明するべきではないかと話したところ、そうしますと言っていたが、本当に業者に説明しているのか。きちんと説明されているかどうかで訴訟がおきる。

Q4

中学校計画も具体化していないと今回の小学校同様、中学校も手遅れになるのではないか。今の段階で中学校の話が全く見えていない。

Q5

以前住んでいたつくば市では、TX開通の前後位に小学校は全部パンク状態になった。4、5年前のタウンミーティングで市長や教育委員会の方に流山市の対策を求めると、つくば市の失敗例を見ているので大丈夫、わかっている我々はちゃんとやると言っていたのに、あっという間に新設小学校を建設することになった。

Q6

共働き家庭が多いので兄弟が別々の学校になると学童も別々で更に保育園も行くとなると迎えが大変。駅前に学童の送迎ステーションや子供の登下校にバスを利用するなどの送迎への助成が

あるといい。また、先日「江戸川学童クラブ」のチラシが配布された。民設民営だが、料金は公設と一緒に書いてある。市からの助成が下りているのだと思うが、何故その学童だけなのか、他の民営の学童には助成がないのか。

A3、4、5、6

民間学童の補助については、江戸川大学の取り組みに市が公的に応援することがあれば、同じ民間であれば公平公正な扱いをしていくことが必要になるだろう。ただし、江戸川大学の民設民営の学童は9月議会の最後に市長が報告したことなので、これから学童の内容を見ていかなくてはならない。

中学校を具体化については、市長は新設小学校1校と表明しているだけにとどまっている。実は新設小学校は2校作る予定、新設中学校は1校それぞれ別々に作る予定だったのを小中併設校と決めたのも市長の判断。新設中学校のことも、教育委員会や議員が求めているもなかなか動けない、ジレンマを強く持っているのが事実である。

Q7

家を購入した時、小山小学校から4分だと言われて購入したが、今回のプランによっては上の子がおおたかの森小学校で下の子が新設小学校になる背景がある。徒歩で行き1.5km、帰り1.5kmは1年生には大変だと思う。

まだ住民になっていない新設のマンションの方が既存の近い小学校に通学できて、私たち、税金を払っている人間がわざわざ遠い学校に行くのはどう考えても不平等。子どもも心理的にいろいろと問題を感じると思う。

Q8

本日配布された資料の新設小学校通学区域についての一覧表の三角で書かれていたところは空き教室と言っていたが、例えばおおたかの森小学校は平成33年に19教室余るのか。余るのなら新設小学校に行く必要はないのでは。

同じく資料の新設小学校の平成33年度の児童数が910人と書いてあるが元々おおたかの森小学

校の生徒が新設小学校に移った場合の数なのか。また、転入してきた人の推計が入っているとのことだが、まだ生まれていない下の子供の数も入っているのか。

新設小学校の校舎の高さはどうなるのか。情報が何も無い。

A7、8

学区制の下で今後 19 教室が平成 33 年時に余っていても、34 年 35 年で新しい児童が入って来るので、その余力はどんどんなくなってしまうという見通しをこの時点で持っている。

新設小学校の平成 33 年度の児童数 910 人に関しては、おおたかの森小学校が平成 32 年の 1,564 人から平成 33 年度に 1130 人に減っているため、新しく転入してくる児童や新しい 1 年生も含めて 910 人が新設小学校に移行する。

流山おおたかの森駅周辺の子どもの出現率を持って今住宅が建っていない土地もその面積でマンション等が出来た時、何人の子供が産まれてくるだろうということを想定して数字を出している。

新設小学校の校舎の高さについては、先日業者に基本計画を発注した。どのような校舎を作ろうかと発注したので具体的な説明ができない現状である。

Q9

学校の教育現場で働いている。学区の選定は、どのような基準で区切っているのか。学校の周り何キロ以内というようにしないと、6 歳の子供が 2 km の距離を歩くと朝夕 2 時間歩いて行くと学校嫌いが増えてしまうのではないかと思う。おおたかの森小学校と小山小学校の地域に新設校の場所を考えなかったのか経緯や新設小学校の場所の選定理由も聞きたい。

Q10

居住しているマンションは 1, 2, 3 案によって新設小学校にもおおたかの森小学校にもどちらにもなる。新設小学校になると市野谷の森周辺を通学すると思うが、森の近くとなると変質者等が心配。時代が違うかもしれないが、私が小学生の頃は 4~5 キロ歩いている子供はいたので安全さえ確保して貰えればと思う。

Q11

40 数年西初石に住んでいる。今までの新設小学校に関わる問題や例えば小山小は PFI が一番良いなど市長が言ったがそれに対して議員も賛成した。今日いる議員の中にもそのころもいた人もいるし、いなかった人もいるが、今日話を聞いていて、市政は大失敗、議員の方は何をやっているのか。

Q12

今日の説明を聞いて非常に雑な説明と思った。文部科学省が言っている一般的なことを課題として捉えていて、それ以降については、それに基づく数字遊びのようにしか見えない資料である。お願いしたいのは一般的事項ではなく、住民の課題に対してどのように対応していくか、次の説明会ではしっかりやって欲しい。

特に一般的に書いてある事項を案の 1, 2, 3 の区域という容易な対策で整理してきたが、これで本当に今まで皆さんが言ってきた課題が解決するのか、まったく考えられない。

Q13

小学 1 年生の息子がいる。東初石 6 丁目から新設小学校に通学するのは遠い。通学区域図を見ると対角線、反対側である。現在、シティテラスからおおたかの森小学校に来るまで 40 分位かかる。更に新設小学校になると遠くなるので、通えない距離であると思っている。

アンダーパスを通ると思うが、坂道が急である。さらに大きな交差点があり、これから交通量も増えると思う。大きな道路を 3 回位渡る。それで流山警察署の向かい側まで歩くと負担があまりにも大きすぎる。

小学校に 8 時前に到着するために、現在 7 時 5 分に家を出るが、新設小学校に通うとなると 6 時前に子どもを送り出さないといけない。

Q14

おおたかの森小学校にいるたくさんの仲間をバラバラにしないで欲しい。

Q15

行政は情報発信が苦手な分野だと思う。情報が伝わってこないということが不安にもなる。もっと情報の発信の仕方を工夫してはどうか。

なぜこの場所に新設小学校を建設する予定なのか。警察署の向かいでダンプも通るし、坂もあり、夜は大人でも怖い。小学校の部活が終わるのが5時半頃、冬だと真っ暗である。

おおたかの森小学校建設費用はどのくらいだったのか。

Q16

おおたかの森小学校の前の通り沿いに住んでおり、1案ではおおたかの森小学校、2、3案では新設小学校になる。毎朝何百人もの生徒が通っている。もし新設小学校に通うようになるとおおたかの森小学校に通う流れに反して新設小学校に通わなければならない。その状況での子どもの気持ちを考えるとなぜ皆と一緒に近くの小学校に行かれないのかという寂しい気持ちになる。

Q17

新設小学校を大畔にしたのは市街化調整区域なので土地代が安い、水道局の前は県の土地なので土地代が高いと聞いている。

A9、10、11、12、13、14、15、16、17

兄弟が異なる学校に行かなければならないということ、通学距離の問題、安全対策として変質者や交通などや、意見交換会の重要性といったことは、協議会でも指摘され認識している。議会としても情報を共有、提供しながらこの問題に取り組んでいく。

おおたかの森小中学校建設費用は土地と建設費が約160億円位で、URに立替えて貰って作った。

学区の線引きは大きな道路や鉄道で行ってきた。今回の新設小学校は都市軸道路という国道6号と同じくらい大きな道路を子どもたちが通う稀なケースの一つなので、通学路の安全対策を

含めて大きな課題があることは重々承知している。

議員一人で頑張っても変わらないものもあるし、議会一致で頑張っても予算権、執行権、人事権は市長が握っているので、そういう力関係の中でやらせていただいていることはご了承願いたい。

場所については土地代の問題である。土地代を優先した。

皆さんの気持ちを聞かせて貰って、議会として委員会としても議員個人としても出来る範囲において応えて行かなければいけない。今後とも意見交換させて頂ければと思う。

7 参加者から議会への要望

【安全対策】

- 交差点には横断歩道、信号機の時間調整（車椅子用）などの安全対策をお願いしたい。
- 定住促進を呼び掛ける予算があるなら、交通対策などに予算を回して欲しい。
- 早めに歩道橋や街灯を整備し安全対策をとって欲しい。

【兄弟】

- 上の子供が入学した学校には下の子供も入学させて卒業までできるようにして欲しい。

【新設中学校】

- 東初石商業地区は小中併設校が転校受け入れの大きな要因だったので、おたかの森小学校に入学した生徒はおたかの森中学校に入学し卒業まで在籍できるようにして欲しい。
- 新設小学校を選んだ場合も西初石中学校、おたかの森中学校どちらかを選べるようにして欲しい。
- 中学校計画までの具体性を示して欲しい。新設小学校に行くと中学はどうなるのかをはっきりして欲しい。

【新設小学校】

■おおたかの森小学校のような最初からエアコンをつけないというような小学校は止めて貰いたい。

■今回の議会報告会では新設小学校を作るのに父兄の痛烈なお願い、批判や疑問点を聞いたがこれを契機に議員が積極的に市の方から案が出て来てから言うのではなく、計画の段階から関わって貰いたい。

■今日出た意見や課題を整理して区域という考え方だけで対策するのではなくて、一つ一つ具体的な対策を提示して欲しい。

【新設小中併設校】

■中学校も検討しているのであれば新設小学校ではなく新設小中併設校にしてはどうか。

【民間学童への助成】

■駅前に学童の送迎ステーションを作るとか、子どもの登下校にバスを利用するなど送迎への助成や民間学童への助成を検討して欲しい。

【通学路】

■新設小学校の建設と通学路の整備などもセットで進めることをお願いしたい。

【学区】

■家庭によってどちらの学校か判断が異なるので、できれば学区選択制にして欲しい。

■流山市の人口分布を見てもおおたかの森小学校周辺は増えているが、他の小学校は大体3、4クラスの学校もある。

地区の区割りだけで考えるのではなく抜本的に考えるのも1つの案かと思う。現在住んでいる人が損をするのは辞めて貰いたい。

■基本的に学校の学区域というのは学校を中心としてそこからの距離で通っていると思う。偏っ

ていて、新しいのが出来た時に一番端の地域の方が非常に不便を強いられ、不公平になると思うので、もう一度学区区域を組み直して欲しい。

【小中学校送迎バス】

■今、保育園で行っている送迎バスの小中学校版を駅に作り、これから移り住んでくる人たちは駅からバスを利用して通学することを検討して欲しい。

8 所感

■戸辺 滋

意見交換会では多くの方が発言され、特に小学校の通学区域に関しては様々な角度から切実な声を頂いた。アンケートにも多くの意見が寄せられ、用紙に書ききれないほど記入して下さった方も多くいたことから、頂いたご意見を丁寧に検証し活かして参りたい。

また、今回の議会報告会では、配布資料の不足や椅子の追加、マイク等の音響設備を急遽用意するといった運営面での不備があった。班長として、参加して下さった方々を迎え入れる体制が十分でなかったことを反省するとともに、今後の教訓として活かして参りたい。

■根本 守

当日は多くの市民が参加され、多様な意見を伺うことができた。

■森田 洋一

1. 全体的な感想

- ・本来、執行部や教育部門に対して、主張する要望を議会報告会にて意見として、話を聴いたといった感じがした。
- ・タイミングとしては、新設小学校の説明会が行われる前、今の時期がふさいわしいと思う。
- ・状況によっては、フォローの報告会が必要になるかもしれない。実際、そういった要望があった。

2. 議会報告会のあり方

- ・現在、年に2回、やらなければならないといった義務感で実施していると感じられる。
- ・今回のようなケースは、5月、11月といったことにとらわれず、臨機応変に開催、逆に従

来型の報告会は、基本年間に一度やれば充分と思う。

3. 個別の所感

- ・上述のように新設小学校の協議状況に合わせての報告会開催がのぞましいと思う。
- ・テーマは、新設小学校と高齢者問題、指定管理者など2つ設定でよい。
- ・行政サイドも説明責任という部分では早めに情報を開示すべきと思う。
- ・情報開示も、ホームページに掲載しています、といった方法ではなく今回のような重要テーマは、人対人の協議、意見交換、話し合いと思う。
- ・行政の説明会においても、①上の子と下の子の通う学校の問題、②通学距離のこと、③二度目の転校の話、④通学の安全、⑤教育の質、などターゲットを絞って数回にわけるとより意見を集約しやすいと思う。
- ・関心の層を分けるという方法。
- ・教育部門と行政部門、連携して説明会を実施していくとよい。
- ・話を聴いているか、伝わっているか、質問者はすぐに読み取るので注意が必要。
- ・会話のキャッチボールが重要で、細かい部分は、ひとつひとつ、話を聴きながらクリアしていくしかない。正解がないので、話し合っって作り上げるしかない。
- ・不動産広告もすべてチェックすべき。
- ・新設小学校は、住民の都合ではなく、行政の都合なので、そこをよく認識する。

4. 主な意見として

- ・東初石6丁目、学区境界線ギリギリのところでは通学の距離が長い。特に、通学途上のトイレの問題は深刻。
- ・上の子と下の子、この問題は解決が必要。
- ・転校話はこれで2回目である。
- ・説明が不十分、経過の説明ももっと丁寧にしてほしい。
- ・安全対策、不審者や交通対策はどうするのか。
- ・子どもの立場に立って考えているのか。
- ・情報発信の方法があまり上手ではない。

■小田桐 仙

多くの方が参加され、前に出て、マイクで発言するというハードルも乗り越えて、多くの方が発言できたことは大変良かったと思います。

市民や地域住民の関心のある内容で、関心が高まっているときに、積極的に議会が出向き、報告会をおこなえば、関心はより高め、問題意識を共有できることを示している。

また、政策的に異なる議員が構成している委員会での報告・資料提供であることから、一定程度条件はあるものの、十分に市民の理解を図る内容まで至っていない未熟さもあり、引き続き、個人的にも委員会集団としても能力向上に取り組みたい。

最後に 当日は発言を控えたが、情報発信の在り方は今後とも市議会側の課題として向上させつつも、情報を受け止めるアンテナの高さも相互に考えなければならない。

■大塚 洋一

多数の参加者が来場され、新設校と学区に対する切実な状況を確認することができた。新設校ができることによって、兄弟で小学生がいる世帯においては、別々の学校に通う場合や兄弟のどちらかに合わせる事によって友達との関係が損なわれてしまうことやご父兄の負担（PTA 等）がかかることが分かった。

「母になるなら流山市」と謳っているが、問題が多くあり、特に子供の教育に一番大切な学校の整備が追いつかず2年前にも学区変更により自宅の近くにある小学校から転校したにも関わらず、更に今回新設小学校の学区になるかもしれないといったケースなども確認できた。

要望の中にあつた、通学路の安全対策としての、横断歩道、歩道橋、信号機の時間調整や中学校の具体化などについて今後も検討して行きたい。

■西尾 段

まず、今までの議会報告会で経験したことの無い集客数に驚いた。

市民だけで60名を越している状態だった。今回はテーマが介護保険の決算と新設小学校の通学区の問題の2点だったが、介護保険には比較的興味が薄いと思っていたところ説明後の質疑応答で質問をしてくださる方が居たことは嬉しい誤算だった。アンケートでは、「他市との比較をもっと詳しくすべき」、「資料が簡単すぎるのももう少し専門的にすべき」などのご指摘もあり、今後の課題として捉えて改善していきたい。

新設小学校の学区の説明では、終了後に非常に多くの方が質問をされ、市民の興味を引いていることが再認識できた。質問者は東初石6丁目の方が多かったが、アンケートによる分析では、市野谷が最も多く全49件中24件。次に東初石9件、西初石2件、おおたかの森2件、南1件、向小金1件、地域無記入が10件あった。

アンケートには、下記の意見があった。

- ・小学校に通う6年の間で2回も強制的に転校させられるのは勘弁してほしい。
- ・近くに学校があるのにわざわざ遠くの学校に通うのは我慢できない。
- ・せっかく仲良くなった友達をバラバラにしないでほしい。

この結果は教育委員会に伝えて、12月に開催される説明会の準備に活用してもらえる様に情報提供していく。

今回の結果を見て、時期、場所、テーマによっては多くの市民が参加してくれることが分かった。今後もテーマの選定には十分に配慮して行っていきたい。

■野田 宏規

来場の方々から大変多くのご意見を頂くことができた。また、先輩議員らのスマートな対応にも目を見張るものがあった。これから、頂いた意見を存分に活かして、自分の立場を見つめ直すとともに、当局にしっかりと確認をしていきたい。